

<授業実践4> 「古典探究」読むこと

1 指導と評価の計画

科目名	古典探究	学年類型	2年	単位数	3単位	話すこと 聞くこと	
単元名	人物像を読み解き、作品の理解を深めよう					書くこと	
教材	司馬遷『史記』 「鴻門之会」					読むこと	○
単元の評価規準							
知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
<p>・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)のア)</p> <p>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。((2)のエ)</p>		<p>「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(A読むこと(1)のオ)</p>		<p>古典の作品を読み、登場人物について自分の考えをまとめる活動を通して、作品の内容や解釈と自分の知見とを照らし合わせて作品の登場人物の人間像を考察し、積極的に関連のある他の作品や資料を調べたり、他者の考察を参考にしたりする中で、自らの学習を調整しようとしている。</p>			
主たる言語活動							
作品の登場人物の人物像について自分の考えをまとめる活動							

時間	授業のねらい・学習活動	重点項目			評価方法
		知	思	態	
1 〜 6	<p><b>登場人物の様子・心情・台詞に注意しながら本文を読んで解釈する。</b></p> <p>①「鴻門之会」に至るまでの歴史的な経緯を確認する。</p> <p>②『剣舞』及び『頭髪上指す』を書き下し文に直し、口語訳をする。</p> <p>③二つの作品の主な登場人物について、その役職や立場、それぞれの関係性を整理する。</p>	○			<p>行動の観察 (授業の発問など)</p>
	<p><b>登場人物について自分の考えをまとめる。</b></p> <p>④主な登場人物のそれぞれの人物像について、作品から読み取れる範囲で自分の考えをまとめる。</p> <p>⑤『剣舞』及び『頭髪上指す』以外の作品及び資料を調べ、登場人物の人物像について自分の考えを深める。</p> <p>⑥それぞれの登場人物について、自分が適当だと思う現代の俳優を割り振る。</p>				

8	<b>グループで話し合いを行い、考えを深める。</b>		○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行動の観察 (グループによる話し合い)</li> <li>・記述の確認 (Teams の提出箱)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 4、5人程度のグループに分かれ、他者の考えを知る。</li> <li>⑧ 新たな発見や自分の考えの変化などをワークシートに記述する。</li> </ul>				
9	<b>自分の考えをまとめ、単元の振り返りをする。</b>		◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>記述の分析 (Teams の提出箱)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑨ 前時までの学習活動を踏まえ、登場人物の人物像について自分の考えをまとめ、ワークシートに記述する。</li> <li>⑩ 単元の振り返りをする。</li> <li>⑪ ワークシートを Teams の提出箱に提出する。</li> </ul>				
	⑫ 定期考査				
		◎	◎		定期考査

※重点項目の欄について、指導に生かす評価には「○」を、記録に残す評価には「◎」を付す。

### ルーブリック

	A	B	C
思考・判断・表現 (第4次)	作品の内容や解釈を自分の知見と結び付け、関連する他の作品や資料、他者の考えなども参考にして、登場人物の人物像を多面的・多角的に捉え、自分の考えをまとめている。	作品の内容や解釈を自分の知見と結び付け、関連する他の作品や資料、他者の考えなども参考にして、登場人物の人物像を捉え、自分の考えをまとめている。	作品を読んで、登場人物の人物像について自分の考えをまとめている。
	LV3	LV2	LV1
主体的に学習に取り組む態度 (第4次)	学習の調整(態度α) 作品を根拠を基に解釈し、関連する作品や資料を調べ、他者の考察も踏まえて、自分の考えを総合的にまとめようとしている。	作品を適切に解釈し、関連する作品や資料を調べ、他者の考察も踏まえて、自分の考えをまとめようとしている。	作品を解釈し、自分の考えをまとめようとしている。
	粘り強さ(態度β) 複数の情報を整理したり、自他の考えを複数比較検討したりして、自分の考えや作品への理解を深めようとしている。	情報を整理したり、自他の考えを比較検討したりして、自分の考えや作品への理解を深めようとしている。	他者の考えを聞いて、自分の考えや作品への理解を深めようとしている。

※「主体的に学習に取り組む態度」の「学習の調整(態度α) LV3」について、「自分の考えを総合的にまとめようとしている」とは、複数の情報や他者の考えも踏まえて自分の考えを深めようとしているかを評価する。

[態度α] 自らの学習を調整しようとする側面	LV3	B	B	A
	LV2	B	B	B
	LV1	C	B	B
		LV1	LV2	LV3
[態度β] 粘り強い取組を行おうとする側面				

## 2 研究の実際と考察

### (1) 個別の学び

授業で読解した二つの作品から読み取ることができる人物像について、ワークシートに沿って根拠を示しながらまとめた。探究する登場人物については制限を設けない予定であったが、資料があまり多く残されていない人物（曹無傷など）を選択してしまうと探究活動が進まないことも考えられるので、授業者から作品における主要人物を対象とするよう指示した。その後、生徒が自ら探究のツールや手法を選択し、教科書の内容からは読み取ることができなかった人物像をより深く探究した。インターネットを活用する生徒が多かったが、小説や歴史書などから情報を取り入れる生徒もおり、ほとんどの生徒が自らの最適な学びのための調整を行っていた。

さらに、登場人物や作品へのより深い理解を促すために、探究した人物像を現代の俳優でキャストイングする活動を行った。キャストイングは人物像の具象化であり、自分の頭の中にあるイメージを他者と共有しやすくするための一つの方法である。他者との意見共有を通して、新たな気づきを得ることで、作品への理解を深めることが目的であり、キャストイングする活動はあくまでも手段であるという点に留意した。

### (2) 協働的な学び

キャストイングした俳優について、他者と意見の交換・共有を行った。異なる俳優を選んだ他者の視点から改めて登場人物を見つめ直し、作品の理解へ還元することを目標とした。考えの変化はワークシートにまとめるとともに評価の対象とした。

異なるキャストイングによって視点の変化が見られるグループもあったが、俳優の選択が似通ってしまう場面もあった。そこで授業者が支援し、それぞれの生徒が探究や調査で読み取った登場人物の特徴を基に、AIを用いて、AIがどのように判断してキャストイングを導き出すのかを生徒と一緒に確認した。生徒自身がその意見をフィードバックすることで次の考えへとつなげた。

### (3) 評価の実際

ループリックで示しているとおり、①個人で探究し、②他者と共有し、③考えの変化を自身へフィードバックする、という三つのプロセスを経ることで登場人物の人物像を読み解き、作品への理解を深めることを目標としている。多くの生徒はB評価に相当する記述ができており、C評価となった生徒は、個人の探究活動の段階からうまく行えなかった生徒であった。古典作品全般に当てはまることであるが、参考となる資料や文献が少ないことも多々あり、特に漢文となるとその傾向は顕著である。個人の探究活動とはいうものの、前提となる知識や情報が少ないことは予想されるので、ある程度授業者から参考資料を紹介するなどの働きかけが必要である。A評価の生徒については、探究や意見の共有によって得

た知見に加えて、登場人物同士の人間関係や生い立ちなどを想像・考察しながら自分の意見へと落とし込んでいた。キャスティングする俳優についても詳しく調べ、演技やイメージとの整合性を細かく確認できているものが多かった。

《実際に生徒が完成させたキャスティング例》

例 1

(5)これまでの学習活動を通して、理由・根拠に触れつつ、登場人物のキャスティングを完成させよう。		
登場人物	選んだ俳優	理由・根拠
項王	新田真剣佑	本人の年齢や染み出る品の良さが、項王の若くして高い地位についているという要素にとってもマッチすると思った。絶対的な存在である項王の華々しく残忍な性格に合いそう。感情的な場面も、目力も使って迫力満点に演じることができるので、残忍な項王を上手く演じられそう。

例 2

(5)これまでの学習活動を通して、理由・根拠に触れつつ、登場人物のキャスティングを完成させよう。		
登場人物	選んだ俳優	理由・根拠
項王	香川照之	<p>項王は楚の名門に生まれ、父が將軍という武家の家系に育った人物。強いカリスマ性と圧倒的な力を持ち 40 万の軍を率いたほどの統率力があつたが、一方で優柔不断で感情の起伏が激しく短気で怒りっぽい面もあつた。また、敵に情けをかける優しさがあると言える反面、怒りや憎しみに支配されて冷静さを失うことも多く、とても人間味のある性格。また、自分の力を過信するがゆえに傲慢なところもあり、プライドの高さも特徴。</p> <p>香川照之さんは、『半沢直樹』や『99.9 -刑事専門弁護士-』などで見せたように、強烈な感情表現と圧倒的な目の演技、立ち振る舞いや声の響きなど観客の心をつかむ俳優だと思う。彼の持つ迫力や熱量は、理想を貫く項王の姿にぴったり合うと思う。</p> <p>また、香川さんの演技は怒りだけでなく、優しさや悲しさといった複雑な感情も伝えられるため、項王の激しさや人間らしさをリアルに表現できると考えた。</p>

いずれのキャスティングも、作品を自分の知見と結び付け、自分の考えをまとめることができている。その上で、例 2 はより多面的・多角的な視点で人物像を捉えられている（枠線部分）。そこで、ループリックに従い、「思考・判断・表現」の評価については、例 1 を B 評価、例 2 を A 評価とした。

### 3 成果と課題

#### (1) 「個別最適な学び」について

今回の実践では、探究の対象や探究のツールなどを生徒一人一人が選択し、自分に合った学習となるよう工夫した。生徒は目標到達への複数のプロセスを選択すること自体には慣れているが、適切な情報の取得や情報ソース自体の知識不足などについては課題がある。生徒がさまざまな手段を用いて学習活動を展開していく中で、その進捗状況に差ができるのは当然であるため、生徒一人一人の実情に合わせた指導や助言が必要となる。机間指導などで生徒の活動状況を把握すると同時に、ICT 機器や教育ア

プリを活用し、生徒の到達度や理解度をより正確に把握し、必要に応じた助言等を行っていくことが重要である。

## (2) 「協働的な学び」について

他者と意見を交え、互いの学習活動を客観的な視点から多面的・多角的に捉えるというねらいはある程度達成されており、他に実践した学校でもおおむね生徒同士での協働は円滑に進んでいる印象を受けた。ただ、グループ討議のような形式をとると参加しにくい生徒もいるため、話し合い形式であれば少人数の形態から始め、それを広げていくようにするとより活動的に学習を行えると考えられる。意見の集約や展開では、ロイロノート・スクール（株式会社 LoiLo）を活用することで共有することもできる。また、NotebookLMなどのツールを活用し、発言することが苦手な生徒の意見を集約したり、グループ間での話し合いを総括して還元したりできるようにしていくことで、より考えが深まると期待できる。

## (3) 二つの学びの一体化について

本実践では、漢文における登場人物を現代の俳優でキャストिंगすることで二つの学びの一体化を図った（資料1）。「個別最適な学び」については、生徒一人一人が自身で最適な学びを選択し登場人物を探究することで、漢文の世界をより深く知ることができた。さらに、「個別最適な学び」で得た知見を他者と共有する際に、相互理解を得やすくすることを目的としてキャストिंगという手法を取り入れた。俳優の選択にばらつきがあることでそれ

ぞれ生徒独自の視点が表現され、調べたことをただ意見交換するよりもイメージしやすく、また、馴染みのある現代の人物に重ねることで、活動もより活発に行われていた。教科書を読むだけでは読み取ることができない古典世界の理解も深まったように感じる。しかし、他者の意見を知り、それをフィードバックするという点においてはまだ改善の余地があると考えられる。限られた授業時間の中で、本文の読解に加えて深い学びを実現するためには、ICTツールの活用は不可欠である。学習活動をよい形のオープンエンドで締めくくるためにも、授業者がICT機器や教育アプリを活用することで二つの学びが更に充実していくように工夫していく必要がある。

【資料1 二つの学びの一体化】

